

ジビエのペットフードや食品としての安全性について

第3支部 村田 篤

犬の飼い主さんから食事について話を伺っていると10～15%ぐらいの方が手作りの食事を与えているのではと思われます。その中でジビエを与えていた飼い主さんがいたことから調べてみました。公衆衛生学方面に積極的に接していないため、情報が古い場合はご容赦ください。

ジビエとは、一般的に、シカ・イノシシ・野ウサギ・カモ等、狩猟によって捕獲される野生鳥獣の肉を差します。フランス語で「gibier」と表記します。伝統的なジビエ料理は、狩猟の盛んなヨーロッパの貴族の間で、フランス料理などの食文化として発達してきました。

近年、日本においては、農作物の被害が拡大していることから、シカ・イノシシを捕獲し、これを資源として有効に活用しようと活動が広がっています。

問題点の一つは、解体する際、獣医師による食肉衛生検査等が行われていないことです。あくまで獣師の方が解体し、勘と経験で肉の状態を判定し流通しています。野生鳥獣の肉の衛生管理はとても難しいと思います。そのため、寄生虫やウイルス・細菌による感染症のリスクが高い肉であることです。大腸菌O157・サルモネラ・トキソプロラズマなどは、人獣共通の感染症を引き起こしま

す。海外ではアカジカ、トナカイなど野生動物から異常プリオントンパクも検出されています。

実際、ホンシュウジカの肉の90%、イノシシの肉の50%から住肉胞子虫が検出されるようです。E型肝炎ウイルスは潜伏期間が6週間と長く、ヒトでは、劇症肝炎になる場合もあり一生治りません。

ペットが感染したことが分かった場合には、深刻な状況も起こると思います。

以上のことから、現状では熟成肉を含むジビエの生食は、「アウト判定」を出さなければいけない危険な状況だと思います。

ヒトにもペットにも、同じ食物では飽きてしまう好奇心旺盛なタイプが何割かはいると思います。中心部温度75度1分以上で、よく加熱したうえで、ジビエの食材の料理を楽しんでもらえればと思います。今後はより食の安全性の向上に期待したいと思います。

参考 厚生労働省 野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針
(ガイドライン) 平成26年

ご存知ですか？『Sマーク』



安全 (Safety)
安心 (Standard)
清潔 (Sanitation)

信頼の理容・美容・クリーニング
飲食店に与えられる目印です

(公財)茨城県生活衛生営業指導センター
TEL. 029-225-6603



セミクジラのストランディング～その時、現場で起きていたこと～

アクアワールド茨城県大洗水族館

海獣展示課 高石慎也

前号（89号）に引き続き、ストランディング事例を紹介します。今回は、2004年4月に、セミクジラの死骸が日立市の川尻海岸に漂着した例です。セミクジラは、温帶から北極圏までの、比較的陸に近い海域に生息するヒゲクジラの仲間で、体長18m、体重100tにもなります。この時に漂着した個体は、のちに測定した結果、体長12.9m、体重33tでした。



漂着時の様子

現場に到着してみると、個体は川尻漁港のすぐ近く、防波堤脇の浅瀬に乗り上げるような形で漂着していました。しばしその大きさに圧倒され、思考停止に陥ってしまいましたが、冷静に観察してみると、非常に困難な状況にあることが分かりました。その場で解体できれば一番良いのですが、個体は海に浸かって波に揺られており、とても解体作業ができる状態ではありません。となると、どこか別の場所へ移動しなければならないのですが、個体を動かそうにも、重機が近寄れる地形ではありません。対処方法を模索する中、個体にロープを掛けて船で曳き、一旦沖出しすればどうか、というアイデアが出ました。そこで、個体の尾鰭にロープを巻く役割に名乗り出たのが、私の上司。しかし、ロープを巻くには、海中に入り、泳いで作業をしなければなりません。ここは地元では有

名な、複雑な波形の水流が押し寄せる地点。漁師さんたちは口を揃えて、「危険だからやめておけ」と言います。しかし上司は引きません。制止を振り切り、現場へ向かいます。その時彼の胸に去来していたのは、水族館職員としての使命感か、生まれながらの海の男（注：上司の実家は漁師）としての矜持か、はたまた困難な状況下で芽生えたヒロイズムか。かくして、彼は海中へと身を投じます。当時新米の私にできる事といえば、上司が持つロープを手繕りながら、成り行きを見守ることぐらい。状況を見やすいように、個体の上へと上がりました。横たわった個体の顔のあたりをよじ登り、大きな胴体の上に立った時の感覚は、今でも忘れられません。そして、14年を経て今の私にできる事といえば、いくらかドラマティックに仕上げたこの原稿を、今までにその上司に提出し、掲載の許可が下りるかどうかを見守ることぐらい…。

さて、時は再び遡り、その後の成り行きは…というと、ロープを掛けるため泳いで尾鰭に近づいた上司が、押し寄せる波に呑まれ一瞬消えたかと思うと、何とか顔を上げたのは軽く5m以上は離れた地点。そう、漁師さんたちの危惧どおり、ま



重機で吊り上げ、トレーラーに載せられるところ
(写真左側が個体の頭部)

さに命がけの作業だったのです。結果、海中を泳いでのロープ掛けは諦め、ボートを出してもらって海上から接近することで、何とか尾鰭に2本のロープを掛けることができました。これでようやく事態が好転する…現場は若干の安堵感に包まれました。ロープはさらに大きな船に固定され、いよいよ沖へと向かいます。固唾を飲む人々。小さくなる船体。張り詰めるロープ。動くか、動くか…次の刹那。…ヒュンッッ！！凄まじい音が空気を切り裂きます。なんと、個体の重さに耐え切れず、ロープが切れたのです。個体のあまりの大きさ、重さに誰もが唖然となつたまま、初日の作業は終了しました。そして2日目、現場を訪れる…あれだけ動かなかった巨体が、なんと一晩の潮の満ち引きにより、作業できる地点にまで流されていました。潮の力はこんなにも強いのかと、あらためて思い知らされました。そこからは、重機とトラックにより、さらに作業しやすい場所へと移動され、解体作業が始まりました。作業にあたつたのは、当館職員に加え、日本鯨類研究所や国立科学博物館の職員といった、知識も経験も豊富なまさしくプロ集団。個体が大きいこと、また、希少な標本のため各部位の計測や研究試料の採取を行いながら丁寧に作業を進めたことから、解体作業には丸2日かかりました。

その後、研究試料の組織などは各専門家の元へ送られ、ひげ板や骨格は当館が所有することになりました。その骨格は全身骨格標本として生まれ



上顎右側の「ひげ板」



2006年、北茨城市に漂着したマッコウクジラ

変わり、当館のエントランスホールに展示されています。また、その後ろには、2006年に北茨城市五浦海岸に漂着した、体長13.76mのマッコウクジラの全身骨格標本が並んでいます。大型ヒゲクジラと大型ハクジラの全身骨格標本と一緒に見られるところはなかなかありません。それぞれの違いを観察するも良し、大きさにただ圧倒されるも良し。少なくとも、それらがかつて生き生きと茨城県の近海を遊泳していたことを想像し、そして今も、多くの鯨類が悠々と泳いでいるであろうことに思いを馳せてみましょう。



展示されている全身骨格標本
(手前がセミクジラ、奥がマッコウクジラ)

ロートル 老頭児獣医の回顧録から（5）

勤務退職者支部 謙 訪 綱 雄

V. 茨城県農林水産部時代

1 鉢田家畜保健衛生所の頃

農水省衛生課にいた当時から、将来は地方の家畜衛生行政に従事したいと希望していたこともあるて担当の衛生課防疫班長からそのためには、それなりの家畜衛生に関する特殊技術すなわち細菌・ウイルス・病理などの特殊技術を持つことを勧められ、家畜衛生試験場で生物的製剤すなわちワクチン・診断液等の製造と研究をしながら家畜衛生技術の向上のため、昭和29年～33年迄勉強することになった。

昭和33年に茨城県では、今後増大化する畜産の振興での家畜衛生諸問題に対応する目的で水戸家畜保健衛生所に家畜病性鑑定のための検査試験室を設置し、県内の家畜疾病の細密な病性鑑定検査をすることになった。この検査に必要な技術を持った人材を求め、茨城県は農水省に病性鑑定技術員の割愛申請をしていた。こんな経緯から農水省から茨城県職員として採用されたのである。

昭和33年7月に住み慣れた東京を後にして、常磐線を石岡駅で乗り継ぎ、鹿島鉄道に揺られながら、新任地の鹿島郡鉢田町に在った茨城県鉢田家畜保健衛生所に赴任したのは、真夏の太陽が照りつけている昭和33年7月3日のことだった。

鉢田家畜保健衛生所を希望したのは、直接県中央の家畜保健衛生所病性鑑定室に勤務する前に、茨城県地方の家畜衛生状況と県内各地域における家畜の疾病について、その基礎知識を得るために自分からお願いして地方の家畜保健衛生所を指定したものだった。1年間だけの約束で鉢田家畜保健衛生所勤務となったのである。

当時の家畜保健衛生所はもっぱら家畜の伝染病の牛結核病・ブルセラ病や種鶏のひな白痢検査と豚コレラ予防接種が主な業務であつた。

2 赴任早々に豚コレラ発生に出会う

希望して地方の家畜保健衛生所勤務になったが、それが思いもよらぬ大変なことになるとは、その時点では全く知らなかった。鉢田家畜保健衛生所に赴任して3日目にして家畜保健衛生所管内の玉造町に、養豚家に最も恐れられている豚の伝染病豚コレラが発生した。赴任の挨拶もそこそこにして早速豚コレラの防疫活動に駆出されることになった。実験室内での豚コレラは家畜衛生試験場で経験済みだが、野外での豚コレラには、初めて会うことになった。

この頃の農家における養豚は、まだ多頭飼育の無かったころで各農家が、田畠の堆肥取り用に各戸で1,2頭の母豚を飼育するとか、あるいは食肉業者や家畜商からの豚小作をしているものが多くいた。そのため農家では軒下に2～3頭の少数の豚が飼われ、豚飼育農家数が多いが飼養等数はさほど多くなかった。そのため、豚コレラ防疫活動は対象者が多いことから難題を抱えていた。予防注射をするにしても軒並みに農家を一軒ごとに巡回する等の手間が大変だった。

当時、茨城県獣医師会副会長をしていた鉢田町の獣医師山口松雄先生の提案で、豚コレラの解剖実習を豚コレラ発生農家の庭先で獣医師会行方支部の開業獣医講習会をするから、是非とも農水省家畜衛生試験場仕込みの病豚の解剖技術を拝見したいとの申し入れがなされ、所長が引き受けた。

数日後、豚コレラの発生したある農家で、鉢田家畜保健衛生所管内の獣医師を対象に解剖実習が行われることになった。当時は未だ耐水性のビニールなどの無かった頃だった。農家の庭先でクレゾールなどの消毒薬を十分に浸した葦の上に豚コレラで斃死した豚を横臥させ解剖を始めた。

対象豚は40度以上の高熱が続き、食欲が全くなく、各種抗生素や治療等にも何の反応もなく約一週間で死亡したものだそうだ。外見は、耳から肩



腹部にチアノーゼ、目の結膜は充血、黒い眼脂で覆われている。外見所見はまさに豚コレラそのものであった。形の如く死体をあお向けにし、喉頭部から剥皮し、まず頸下リンパを診る。リンパ腺は極度の重出血で真っ黒に見える。次に腹部の剥皮をして腹膜を露出させてから、内臓を傷つけないように腹膜を切断し内臓器を取り出す。教科書通りの豚コレラ特有の臓器変状が見られた。脾臓の辺縁部の数か所に出血梗塞、内臓腸間膜リンパの極度の充出血、膀胱粘膜の点状出血、腎臓被膜下の点状出血、大腸回盲腸部に典型的なボタン状潰瘍が見られた。これほど豚コレラの典型的剖検所見は、野外ではめったに見ることがないものである。このことは、該当豚は全く豚コレラのワクチン接種をしていなかったことによるものと思われた。同席していた先生方も豚コレラのこの剖検所見は、随分と参考になったらしい。

次回は、臨床所見・血液検査についての講義を要請され、近日中にその機会を設けることを所長が約束させられた。

緊急の予防注射や軒並の豚コレラ検診が役場の職員とともに各戸ごとに巡回検査が数日間行われ、それなりの成果が上げられた。それにしても豚コレラクリスタルバイオレットワクチンの効果は絶対で同じ豚房に予防注射済みのものと未注射のものが同居した場合、注射済の豚は全く異常を認めなかった。この事実に養豚農家も納得し事後の予防注射に拍車がかけられることになった。

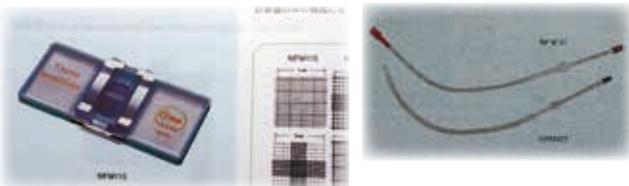
以前から要望のあった豚コレラに関する臨床所見の研修会が、家畜保健衛生所で開催され、鉢田・潮来家畜保健衛生所管内の開業獣医師が集まった。研修会は用意したテキストによってこと細かく豚

コレラの臨床所見と診断の要点、さらに診断に必要な血液検査の細部について講義をした。

豚コレラの臨床症状

食欲の減退、あるいは絶廃し高熱を発し、豚房の隅に頭を隠すようにうずくまる。子ブタの場合には、眼瞼が腫脹し黒褐色の眼脂で覆われ、神経症状を呈し足がフラ付くものもある。皮膚にチアノーゼが現れ、特に耳や腹部に多くみられる。便は熱発当初は秘結するが後半には軟便や下痢状にさらに進行すると血便を排出するようになる。気づいたことだが豚舎に入った途端その豚舎特有の臭いが気になった。それぞれ豚に給与する飼料の種類によって、その豚舎の臭いが微妙に違っている。豚コレラ発生豚舎には、かすかな針葉樹林特有の臭いがあって、経験を積んで来ると豚舎に入っただけで、その臭気で豚コレラの発生か否かが分かるようになった。これが職人肌というものかと話したことでもあった。このことを関係者に話して見たが、誰も否定的で気づかなかつたという。同僚の木藤技師だけがこのことについて、共鳴してくれていた。

此の頃は現在のように自動血液検査器は無かつた。すべてが手作業で行う。血液検査は、耳の静脈から採血し、スライドグラスに薄く塗抹し、ギムザ染色で幼若赤血球や白血球の核の左方移動を確認する。さらに大事なことは、メランジュールで採血し白血球数をカウントした。白血球の減少(Leukopenia)は、豚コレラ決定的診断の要因の一つであった。



トーマの血球計算盤とメランジュール

解剖後の各臓器の組織学的検査では、脳の血管周囲細胞の確認が、豚コレラ脳炎の決め手となる。この組織検査は、新規に設定された水戸家畜保健衛生所の衛生試験室で実施した。この検査を実施

するため、茨城県では病理組織検査要員を必要としたのである。1年後に此処の検査室で検査を担当することが決められていた

水戸家畜保健衛生所の頃

1. 水戸家畜保健衛生所の概要

昭和34年4月に県との約束通り、水戸家畜保健衛生所勤務になった。この頃、水戸家畜保健衛生所は水戸市東原自由が丘十文字交差点の傍にあった。隣は茨城協同飼料店、道路を挟んで前側には水戸県北酪農協の事務所があった。水戸家畜保健衛生所は元石田乳牛農場の牛乳処理場を建築費308,600円の事業費で改築した木造の二階屋だった。その裏側に新規の衛生試験室を増築した施設で裏庭に牛保定用の柵場があって、近郊の農家が赤牛を連れてきて人工授精を受けに来ていた。

そこの試験室を担当することになったのである。農水省家畜衛生試験場で勉強したことが試されることになった。



自由が丘当時の水戸家畜保健衛生所

の細菌感染の治療に的確な抗生素の使用に大きく貢献した。病理組織検査では、豚コレラの鑑定が主流で毎日、県内各家畜保健衛生所から持ち込まれる臓器の組織検査に没頭した記憶がある。急を要する場合には検査室の二階に泊まり込みで、急速パラフィン包埋法で処理し24時間で結果を出すようなこともしばしばであった。

病理組織検査は随分と手間のかかる検査で、検査が終了するまで1週間以上も要することもあった。まず検査をする各臓器を親指大に切り込み、10%のホルマリンで1週間ぐらい固定化することから始まる。組織標本を作るには、その後の処置

に長時間を要する。先ずホルマリンで固定された組織片からホルマリンを抜くため、精製水に浸漬する操作を幾度となく繰り返す。次に今度は組織内の水分を除去する作業がある。そのために低濃度のアルコール水～高濃度のアルコール水に繰り返し浸漬し、最後には純粋な100%アルコールで完全に組織内の水分を抜き取る。水分を完全に抜き取った臓器片をパラフィンの中に包埋し、パラフィンが固まってから、ミクロトームで2～3ミクロンの薄さに切り取り、スライドグラス上に卵白で貼り付ける。スライドグラス上に張り付けた超薄い臓器片からパラフィンを除去するため、数時間キシロールにつけた後ヘマトキシリソジン染色(HE)で染色して顕微鏡下で組織の変状を確認する。これに要する時間が1週間も要する、気長な仕事だった。

この当時は、地方の家畜保健衛生所における病理組織検査の実施は行われていなかったため、随分と注目されたりした。このため豚コレラの診断等も確実に実施されこの検査室は貴重な存在として知られるようになった。

その後、豚の扁桃組織摘出による蛍光抗体法が確立され豚コレラ診断が短時間で出来るようになったのは、数年後のことであった。



2. 昭和34年ごろの水戸家畜付近の畜産状況

水戸家畜保健衛生所が水戸市自由が丘に設置されたのは、昭和25年に家畜保健衛生所法が制定されてから2年後の昭和27年に、管轄区域を水戸市、東茨城郡(一部除く)、西茨城郡、那珂郡として水戸市東原の自由が丘交差点付近に設置され、管内の畜産特に家畜伝染病の防疫にその主力を注いでいた。

その当時、水戸市自由が丘付近では、石田酪農場を中心とした酪農家が多く、水戸酪農協同組合も設置されていたし、更に種鶏の飼育や養豚を農業経営の中に取り入れ、農業の近代化を営むもの多かった。今から60年も前のことだが、当時の

ことを思い出しながら、この付近の畜産事情について述べて見たい。

水戸家畜保健衛生所の隣には、阿久井氏が社長の協同飼料店、道路の向こうの現在の石田外科医院の場所には、石田氏の乳牛舎と草地と放牧地があつて数頭の乳牛と牡牛が飼育されていた。その脇には水戸酪農協同組合事務所が在つて、鈴木・雨谷氏の二人の獣医師が組合員の牛の診療や人工授精の活動していた。家畜保健衛生所のすぐ裏には、バタリ一式の300羽ほど飼育していた養鶏場があつて、鶏糞の悪臭とニワトリの鳴き声がうるさかった。

また、東町の体育館の近くには、白石牛乳店が数頭の乳牛を飼養し搾乳し、壇詰めして「白戸牛乳」の名称で、市内の病院等に毎朝配達していた。また砂久保には、木村酪農家。常盤小学校のそばには小林氏、西原には伊藤氏・桐原氏がそれぞれ数頭の乳牛を飼養していた。石田農場の南側は広大な梨畠があつて小林氏が茨城ふ化場に供給する種卵の生産をしていたし、更に新原の現在ボーリング場の当たりには、橘一族の経営する2農場があつて小規模の酪農をしていた。更に現在の歴史館の在る場所には、県立水戸農学校があつて、その農場には牛舎や豚舎に数頭の牛、豚が畜産科の生徒のため、それぞれ家畜が飼育されていた。また、赤塚駅と上水戸駅を結ぶ軌道の傍には、桑名氏が種牡豚を飼いこの地域の養豚事業に携わっていた。更に現在の梅ヶ丘地区でも乳牛数頭を飼育する小川氏兄弟が居た。見川の丹下地区には、徳川農場や石川氏、橘氏等が数頭の乳牛の飼育をしていた。又地区に丹下ふ化場もあった事が思い出される。



水戸家畜保健衛生所管内畜産関係者

そのほか近在の農家には、農耕用の赤牛が飼育されていて、繁殖のため家畜保健衛生所迄人工授精を受けに来ていた。そのため、家畜保健衛生所の裏庭には、木製の牛固定用の枠が設置されていた。人工授精用の牛精液は、適切な処理を施したうえ、滅菌されたストローに封じられ、週に2回友部の畜産試験場からアルミ製の低温保存器で上水戸駅まで送られてきていた。管内の地域に牛精液の配布事業も家畜保健衛生所の事業のひとつでもあった。

その後、水戸市の人口増加に伴い、この地域も都市化が進み、その影響から家畜の排出する糞尿や悪臭等の畜産公害問題が起り始めた。その為、市街化地域の家畜飼育は撤退をせざるを得ない状況に追い込まれ、家畜の飼育を止めたりして、他の地域に土地を求めて移転するなどして、この地帯には家畜の飼育は全く見られなくなった。これも時の流れでやむ得ないものであった。



水戸家畜保健衛生所管内の
獣医師・人工授精師の会合

3. 楽しかった良き時代の牛の結核・ブルセラ検査

家畜伝染病予防法の規定によって、搾乳牛は年1回必ず牛結核病とブルセラ病の検査を受けることが義務付けられていた。年度の初めごろには家畜保健衛生所から検査場所と検査日が公表され、該当する市町村の職員とともに検査を実施するのが、習わしだった。

検査日程で近場の検査では自転車でも出かけることも出来たが、遠いところでは指定された検査場所まで行くのが大変なことだった。当時水戸家畜保

健衛生所には、一台しか無かったオートバイは、比較的遠くの市町村の検査場所に行く者が使用することになっていた。残された者は止む無く自転車か電車で行くことになる。昭和34年ごろは上水戸から西は御前山まで東は大洗までチンチン電車があったころだった。

いつの事だったか木藤技師と二人で当時内原村の大和開拓の結核・ブルセラの検査に行くことになったが、例によって自転車で行くことになった。牛乳検査員の原付自転車があったので、私が運転し、細引き紐でもう1台の自転車を引くことを考え付いた。最初の頃は慎重にゆっくりとした運転だったが、人通りの少ないところではある程度スピードをあげる様にしていたが、確か河田の桜川付近の坂に差し掛かったところで、急に新人技師の木藤さんの自転車が私の横に並ぶように迫り、大きな声で何か怒鳴っている。何事かと振り向くと木藤さんは自転車もろとも道路下の田んぼに転がり込んでいた。幸い怪我は無かったが、田んぼのドロを全身に浴び目も口も顔と言わずドロ人形のようで、気の毒の窮みである。付近の農家で井戸を借りてドロ落しと洗濯をさせてもらう。再び自転車と原付自転車で目的地に向かう。

検査場所の現地では、牛が数頭集まり私達の来るのを待っていた。早速三角枠に牛を引き入れ、ブルセラ検査のため頸静脈からのブルセラ病検査用の採血と結核検査のためツベルクリン注射前の尾根部の皮膚の厚さをノギスで測り、同部にツベルクリンの皮内に0.1mlを注入する。3日後にまた注射部の皮膚の厚さを測定し陽性／疑陽性・陰性の判定をする。一日の検査頭数は大体40頭前後になるよう検査計画はされていた。昼飯は酪農農家の人たちがカボチャとかジャガイモとかの煮たものとかおにぎりをもってきててくれる。食事中は自然と座談会になり、牛伝染病の話とか乳房炎の予防と治療、硝酸塩中毒の話とか、農家の人は貪欲に衛生の知識を得ようと話し掛けてくる。検査だけでなく家畜の衛生指導もしっかりと行って、再びもと来た道を自転車で帰る。この頃は農家との家畜衛生懇談会もこんな形で自然行ってたもので検査

も楽しく、のんびりしたもので良き時代だった。

4. イバラキ病は異型悪性流行性感冒と呼ばれていた



口腔上唇部の糜爛と潰瘍を検査している筆者

於ける茨城八千代

水戸家畜保健衛生所の試験室に赴任してから間もなくの頃、管轄内に牛の流感様の症状で死亡するものが始めた。10年前に流行した北研毒や家衛試毒の流感とも異なり、軽度の発熱、歩行困難、強度の嚥下困難を伴い、水分飢餓の状態で死亡につながるもののが多発したのである。一時は海外で流行したことのある流行熱とかカタール熱、口蹄疫、水疱性口炎等々が疑われたが、究極的にその原因が分からずに、巷では牛の異型悪性流行性感冒と仮称され、この病気の防疫対応処置がとられていた。

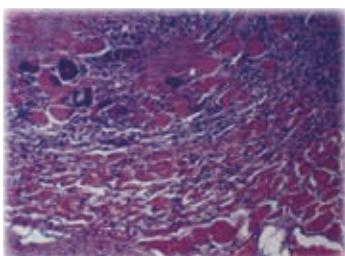
従来の流行性感冒と異なる点は、強度の嚥下障害による水分飢餓状態による重症化と血中のリンパ球の中性多核白血球の増加、更に脳障害が認められないこと、病理組織検査では、強度の食道筋の出血が認められること等々があった。

原因の究明のため、家畜衛生試験場ウイルス室に病性鑑定とウイルスの分離を要請したところ、なるべく発症初期の罹患牛をとの要請があって、確か県西地区の八千代町・関城町に発生した病牛を鑑定材料として提供して、病性鑑定をお願いした。その結果これらの病牛から今まで知られていなかった未知のウイルスが発見され、「イバラキウイルス」と命名され、このウイルスによって起こる疾病を「イバラキ病」とされ、日本獣医学会で認められた経緯がある。本病の治療は嚥下障害のための、水分飢餓をなくすため大量の水を病牛の胃内に注入することを念頭に、病牛の臍部を剃毛し消毒の上この部を切皮



し、直径1センチ程度の套管針を挿しこみ大量（5～10ℓ）の水分注入をすることが最大の治療法だった。套管針がなかった時には、緊急用として、適当な太さの篠竹の節を抜き先端を鋭く切り、煮沸消毒の上套管針の代用とした獣医師もあった。とも角どんな方法でも罹患牛には水分の補給が重要な治療法であった。

因みに水分不足で死亡した牛の解剖で驚いたことは、牛胃内は馬糞状態に乾燥して居たことである。



なお、本病の病理組織学的検査状況は、日本獣医学会に家畜衛生試験場の病理組織学検査室と共同研究として発表している。

食道筋の出血と変性 本病の茨城県での発生は、昭和25年4,330頭で翌年は全く発生がなかったことが不思議であった。おそらく気象等の関係から感染源となるベクターの発生が影響したのかもしれない。

その後、南米に家畜衛生の研修に一ヶ月ほど派遣されたことがあった。その時アメリカのある研究所のドクターから茨城からも来ている人も居るようだが、その後イバラキ病はどうなったかと諮問されたことがあった。イバラキ病はアメリカでも関心がもたれていたようだった。

5. 豚の奇病白蠟病の正体

鹿行の麻生付近で養豚家や獣医師間での評判になった豚の病気で、豚コレラのワクチン接種の有無にかかわらずに、体表が透き透るほどに真っ白に変わり、段々に瘦削、微熱、元気喪失、衰弱、食欲不振の経過を辿って死亡する慢性的疾病で今まで経験のない病気でどんな治療対策をしても治癒することがなく死に至る、としてこの地域では今まで見たこともない不思議な豚の病気と風評になっていた。この地方ではこの豚の病気をその体表が透き透るほどの白さになっていくことから「白蠟病」と呼んでいたようである。

私がこの奇病の噂を聞いたのは、県北家畜保健

衛生所の病性鑑定課長をしていた頃だから昭和44年頃のことであった。この新しい奇病に興味があったので、是非病性鑑定をして見たいと思っていたが、常時発生しているもので無いので、発生がみられたらすぐに連絡をくれるよう家畜保健衛生所に依頼していた。

数日経てから鹿行の家畜保健衛生所から麻生町の種豚農場で白蠟病の発生があったと連絡があった。初めて診る新病にワクワクしながら、病性鑑定に必要な検査器材を用意し行くことにした。

紹介された当該養豚場は衛生状態の良い農場で数頭の種牡豚を保有し、繁殖と肥育豚を飼育する一貫経営の農場であった。問題の白蠟病とされる豚は種雄豚候補として育成され豚コレラワクチンも接種済みの体重40キロ程度の豚だった。

先ず外観では、その体表は真っ白で血の氣を失ったように見えるものであった。眼結膜、口腔粘膜も貧血状態で体温は39.5℃とやや高熱で食欲も余り無く、活気も無い状態で豚舎の隅に呆然と立っている状態だった。赤血球数は200万個、白血球は1500個で極端な貧血状態であった。

解剖は硝酸ストリキニーネで殺処分し、実施した。解剖所見は顎凹、鼠蹊等の体表リンパの充出血、内臓では、腎臓被膜下の出血、脾臓の辺縁部の出血梗塞、腸間膜リンパの腫脹充出血、膀胱の内粘膜の点状出血、大腸回盲部に潰瘍等々の豚コレラ特有の剖検所見がみられ、慢性の豚コレラと診断された。

豚の新しい病気かと思ったが、鹿行地方の仮称白蠟病は、慢性豚コレラと診断した。ワクチン接種による免疫抗体と豚コレラウイルスとのバランスの拮抗がこの症状を起こしたものと考えられた。

なお、後日病理組織検査の結果についても、間違いない豚コレラの所見がみられていた。

6. 五月の鯉のぼりは大嫌いだ

私は、爽やかな五月の風に舞い大空高く泳ぐ鯉のぼりは見るのも憂鬱になるもので大嫌いなもの一つである。これには私の生涯にとって決して忘れる出来ない忌まわしい事情があった。それは昭

和37年5月のことだった。長男の高綱（5歳）が南町愛恩幼稚園からの帰宅の時、バスから降車時に後ろから走行中のダンプカーに衝突され、一瞬に幼い命を失ったからである。

この子は、親の目から見ても特段に聰明な子であったようと思う。特に教えたわけでもなかったが、5歳にしてカナ書き、二ケタの足し算も得意でどうして計算するのかも分からず、どうやって答えを出すのと聞いても、僕も分からないけど、その答えは解るんだと言っていた。しかも物事に熱中する性格で、子供同士で遊ぶ「メンコ・ビー玉・トランプ」が得意で、遊びに夢中になるとオシッコを我慢しておもらしながらも遊びに夢中になっていた。よく近所の高綱より2・3歳上の子が、高綱ちゃんに「メンコやビー玉を全部取られた」と、泣きながら来ていたこともよっちょりやうであった。かわいそうだから返してあげなさいというと本気の勝負で勝ったんだから、僕は悪くないよと言っていたことが、思い出される。

子供ながら何か感じるものがあったのかもしれない。その前の晩の夕食時に、明日は幼稚園に行きたくないと言い出した。どうしてかと聞いたところ、明日は鯉のぼりの絵描きがあるが、僕は絵をかくのは下手だからとの理由だった。

簡単な鯉のぼりの絵を描いてあげたらこれなら僕でも描ける。明日はこれを描いて先生に見せるよと、張り切っていったのに、こんな大事になるとは、思いもよらなかった。あの鯉のぼりに乗り千の風に乗って空高く大空に行ってしまった。だから私にとっては、鯉のぼりは見るのもつらい思い出があつてきらいなのだ。

その日わたくしは不思議な体験をした。当日、茨城町網掛地域の菜の花の採蜜のために来ている県内外からの移動養蜂家のミツバチの腐蝕病



検査のために、出張検査だった。ミツバチの腐蝕病は *Paenibacillus larvae* によって起こる。ミツバチの幼虫が死滅する養蜂家にとって、その経営も左右するほどの恐ろしい法定伝染病であった。



当日予定していた茨城町の数か所の養蜂場の検査を終わり、帰途に就く途中確か11時頃だったと思うが、涸沼川のほとりで鮎釣りをしていた人がいたので、その土手にオートバイのスタンドを立て、眺めていた。土手の上の道路で地盤も固いところに駐車していた。そのとき風もないのに突然オートバイが倒れたのである。立て直しエンジンをかけ走り出すと、バイクの振動がいつもと違ひ飛び跳ねるような感覚が伝わってくる。しかもなんだか今日は早く帰らなければというと、気があせる今まで感じたことのない奇妙な感覚があった。そんな感覚で国道6号を水戸に向かい平須の近くまで来た時、武藤次長がタクシーで水戸方面から来て、早くこのタクシーに乗れという。何事かと思う。聞くと子供の高綱が幼稚園の帰途にトラックに撥ねられ、今市内の志村外科病院に救急車で運ばれたという。詳しい容態は不明だといっただけで詳しい事情については、あまり車中では話してくれなかった。そのことから、これはだめだなど察した。予感は当たった。

病院に到着、院長に残念ながら手の施しようもなかった。まったく残念なことです。と宣告された。思った通りのことと覚悟はしていたものの、涙も言葉も出なかった。冷たくなったわが子を抱いて、家に帰ろう。と言うのがやっとだった。柳河の家に帰り一人になり、二階の寝室に真っ白い包帯のぐるぐる巻きのわが子を抱いて、誰にはばかることなく大声を出して泣いたことを60年も過ぎた今でもはっきりと思い出す。

五月になり鯉のぼりがみられるころになると、今でも思い出し、憂鬱になる。だから五月の風と鯉のぼりは、見るのも嫌で嫌いなものになった。

7. 水戸家畜保健衛生所の愛宕町への移転

水戸市自由が丘にあった水戸家畜保健衛生所は、水戸市愛宕町の愛宕神社近くに在った元県蚕業試験場跡に移転したのは、昭和38年のことだった。

水戸家畜保健衛生所は昭和25年に家畜衛生保健所法の規定に従って水戸市東原に設置され水戸地方の家畜衛生と畜産の振興事業に努めてきた。しかし時代の流れは、農業経営の合理化と国民の食生活の向上改善施策から、畜産の急激な発展を見て、多頭飼育形態に移行した畜産は農業粗収入の主力を占めることになった。そのため、現状に即応した家畜保健衛生所の充実が求められ、畜産振興施策と家畜衛生充実のため、指導職員の定員数の増加を図ることになった。しかし、現状の場所ではその敷地も狭く、しかも現在の東原は市街化が激しくなってきたため、水戸家畜保健衛生所の機能拡大を目的に敷地の広い場所に予算400万円で増築改善することになったのである。



中央家畜保健衛生所

県畜産課の要請を受けて、早速水戸家畜保健衛生所管内の市町村（水戸市、勝田市、那珂湊市、城里町）

茨城町、大洗町、常澄村、内原村、桂村、御前山村、)で構成する水戸家畜保健衛生所管内畜産振興会を結成さらに水戸家畜保健衛生所管内の畜産団体で構成する水戸地区畜産振興協議会が新水戸家畜保健衛生所再建の準備に取り掛かった。

当時の茨城県の財政状況は厳しく県の施設の建築および出先機関の公用車等の設置に当たっては、地元の受益者負担として、その設置費用の二分の一を寄付しなければならない状態であった。

まず、受益団体としての県への家畜保健衛生所設立資金の寄付（200万円）と再建設置場所の選定が協議の対象になった。そのため、水戸家畜保健衛生所管轄区城市町村で組織する水戸地区畜産振興会を組織化し、この組織から200万円の寄付を

図ることになり、数回にわたって関係者で協議検討を重ねた結果、水戸市100万、勝田市30万、那珂湊市20万、茨城町、常北町、大洗町、桂村、御前山村、内原村、常澄村がそれぞれ10万円の負担をすることが決まった。

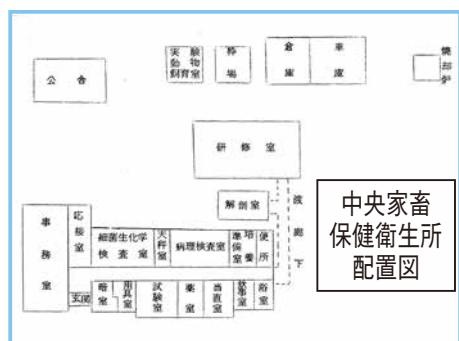
移転建築先の土地の選定には、管内の畜産団体と市町村からの選定委員数名で、水戸市内に限定して、その候補地を選定することになった。候補地としては、水戸市内で探すことになり、千波の県林業試験場跡地、愛宕町の蚕糸試験場跡地、堀町の水戸屠場跡地・元水戸連隊射撃場跡地などが候補に挙ったが結局、選定委員会で愛宕町の県有地蚕糸試験場跡地 3422.56 m²が決定された経緯があった。

この中央家畜保健衛生所の新築には、当時の立花所長と私が寄付資金の用達、建築場所の設定、基本的構造の設計等々忙しい毎日だった。

8. 中央家保新築現場監督は武双山の父御だった

設計図も確定し38年の5月の中頃からいよいよ土台の基礎工事から建築が始まった。その頃私は、柳河から自由ヶ丘まで自転車での通勤だった。建設工事の愛宕町は通勤の途中だった。愛宕の晒井の坂と愛宕古墳の脇の裏通りを通り抜け、工事の進行状況の現場をのぞいてから段々に出来上がっててくる建築現場を見てから、自由が丘の家畜保健衛生所への通勤は楽しみだった。工事の着工から完成までの経過を写真に収め、最後の竣工式に披露したいと思い立ったためでもある。

工事は久保田今朝武県議の経営する「東洋工業株式会社」が請け負っていた。この中央家畜保健衛生所の建築に当たって、若い現場監督として会社から技術者尾曾



て、家畜保健衛生所の建築の完成まで、現場の管理に努めていた。彼は「マーちゃん」の愛称で呼ばれ工事技術者の中で好感をもたれ、熱心に仕事をしていた。この好感の持てた青年現場監督が後に大相撲の大関まで昇進した大関武双山の父親になる人だったのである。

尾曾さんは水戸農業高校の頃には、相撲部に籍を置いて部活動に励み、国体競技にでも活躍した人だったという。高校を卒業してからも国体でも茨城県代表の相撲の青年の部として数回にわたり国体で活躍していた。あんこ型でなく筋肉質の体格は、がっちりとして、その腕力も脚力も無類に強かった。家畜保健衛生所の建築工事現場の空き地で、私と良く相撲を取ったがただの1回も勝てなかつた。本当に頑強ながっちりした体格には手も足も出ない状態であったことが思い出される。

彼は、39年頃に結婚し、男の子を授つたことをきっかけに、自分の家の庭先に土俵を作り、その子に幼少の頃から相撲のスパルタ教育し育てたという。この子が大学の相撲部を経て、大相撲界に抜擢され、角界の大関武双山になったのである。現在もなお、藤島親方として大相撲界で活躍されている。

その後、尾曾さんは、現在東洋工業株式会社の社長に就任し、業界でもその信望も高く茨城県内の公共事業の建設に貢献している。

9. タラッタ ラッタ ラッタ子豚のダンス病

飼育豚の品種の改良によって、従来飼育していた豚の品種がラードタイプの中ヨークシャーから肉質タイプのランドレース種に替わってから、管内の養豚場で出産した数頭の子豚が授乳時に一斉に「ピョン・ピョン」と跳ねだしたりして、母豚の乳頭につくこと出来ないでいる。その仕草はまさにタラッタラッタウサギのダンスならぬ、子豚のダンスである。

感染症を疑い各種の血液検査や細菌・ウイルス検査等を実施してみたが、これという異常は見られなかった。その後この病気は全国的に発生したため、豚病専門機関でも取り上げ検査した結果、

この新しい震顫を主張とした子豚の病気は、先天性痙攣症（ダンス病dancing disease）と診断され、豚の遺伝的要因と環境要因が関与する哺乳子豚の病気であることが判明した。

ちなみにこの病気の発生した養豚場では、発症豚の母豚は全て特定の農場から導入された導入豚に発生し、しかもF1に限定されていた。同じ血統のF1のみが発生していたことが分かった。急激な豚品種の改良のもたらした新病であった。

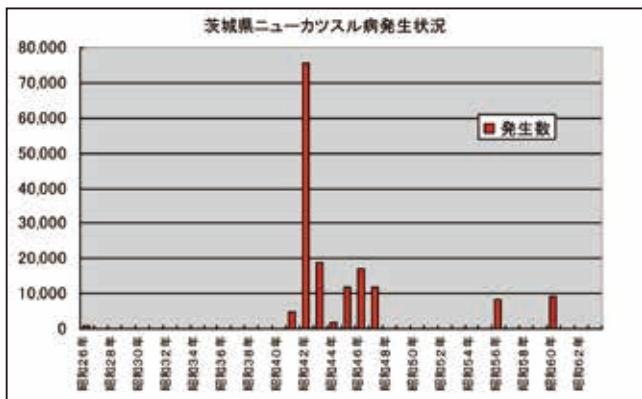
このほか、子豚のダンス病のほかに、ある程度発育が経過したものに、急激に刺激を与えるとその一腹の子豚が一斉に、てんかん状態になり、口から泡を吹き出し目をむき出して倒れる現象も経験した。これも遺伝因子の影響であったものと考えられた。

この病気もその原因が遺伝因子の関係からくることが明らかになつたので、種豚の選定に気を付けるようになってから急激に減少していった。

10. 猛威を振るつたニューカッスル病の発生

茨城県でのニューカッスル病の発生は、昭和26年7月である。当時の東茨城郡長岡村大戸の865羽の発生が最初で、次いで8月に真壁郡上野村に8羽発生と続いた。当時の県報告では、「告示444号昭和26年7月30日知事友末洋治 ニューカッスル病 鶏865羽、東茨城郡長岡村 7月2日決定、殺処分773羽 92羽へ死 回復7羽」と記録されている。この長岡村は現在の茨城町大戸で、水戸市の孵化場傘下の数戸の種鶏家の間に発生したものである。この発生の経緯は、種鶏に対し鶏痘予防のため鶏痘ワクチンを使用したが、使用方法を誤り皮膚に擦り込むところを皮下注射したという。数日後に、死亡するものや、しゃがみ込む症状が現れたので、ワクチンの事故であろうという事で家畜保健衛生所に持ち込まれた。さらに注射事故の疑いあるとのことで農水省家畜衛生試験場へ病性鑑定を依頼した結果、ニューカッスル病と決定された経緯がある。

(このことについては、畜産局衛生課時代の項で述べている。)



これが茨城県におけるニューカッスル病発生の最初である。その後、本県では、暫くの間ニューカッスル病の発生は無かったが、昭和41年秋頃の10月下旬に稲敷郡美浦村および土浦地域の養鶏家の間にCRD伝染性コリーザ様の症状を呈する鶏が散発しているとの情報があつて、当時の江戸崎家畜保健衛生所が病性鑑定を実施した結果、ニューカッスル病と決定されたものである。41年の発生は当時の記録によると、発生戸数6戸、発生数4,729羽で美浦村、江戸崎町、利根町であった。当時の剖検所見の記録では、消化管の粘膜面の限局性出血、出血部の儀膜形成、腺胃、食道及び筋胃移行部の出血、卵巣の出血が見られている。この時の発生が42年の本県全域に亘る75,846羽の大流行に繋がる基になったものと思われる。

昭和42年の本病の流行は凄まじいものがあったと記憶している。当年の1月、北相馬郡守谷町高野地区にニューカッスル病の疑いがありとする届け出があったことに始まる。これを基に利根川流域に沿って本病の蔓延流行が起こって、2月の中旬をピークに激しい病勢で流行し、県内34市町村141戸の養鶏場で75,846羽の発生を見ており、県内500羽以下の小規模養鶏場の発生戸数65%を占めると言う大惨事であった。その大流行の原因として考えられることは、これまでの発生は神奈川、埼玉、東京等の関東南部地域だったため、よもや本県にまでという油断が養鶏農家の間にあって、疎かになっていた事と、急激に蔓延してゆく本病に対し、ワクチンの緊急手配も遅れがちで、防疫措置の遅れが大きな被害をもたらしたものと考えられた。



プロイラー農場のニューカッスル病

ニューカッスル病の発生時季については、秋口から冬期に多いとされているが、全国の場合と、茨城県の場合を検討してみた。全国では昭和41年から46年の7年間の集計で茨城県の場合には、42～43年の2年間の月別発生数を基に調べた。その結果、何れも2月の発生が多く見られ気温の温暖化に従って発生数も減少する傾向があつた。

ニューカッスル病の予防注射は、昭和26年から全国的に実施されるようになっていたが、茨城県でも26年にニューカッスル病の発生によって、ワクチン接種が行われるようになった。この当時のワクチンは、不活化ワクチンの筋肉内2回注射方式で随分と手間の掛かる方法であった。

11. 感染鶏の殺処分方法は残酷な首抜き法だった

茨城県では昭和24年のニューカッスル病の大発生を見たが、この頃の養鶏経営はいずれも小規模の養鶏家で飼養羽数も占められて大抵は300羽ぐらいの養鶏家が大部分を占めていた。中央家畜保健衛生所管内の大型の養鶏場は、茨城町下石崎に、神奈川県から移動してきた2万羽を飼育する一戸のみで、大型の養鶏場は無かった頃であった。

ニューカッスル病感染鶏は、家畜伝染病予防法の規定によって殺処分が行われることになる。殺処分方法は、豚コレラの罹患豚と同様に硝酸ストリキニーネ水溶液の注射によって行われていたが、鶏のような小さい動物では動きも激しいので術者の危険性も高いとの意見もあって、硝酸ストリキニーネ以外の方法に改めることになった。いろいろと検討の結果、家畜防疫員の安全性を重視して食鳥業者が行っている頸関節の脱臼法の「首抜き法」で行うことになった。

首抜き法とは、鶏の両脚を左手で握り、右手で鶏の第2から第3頸骨関節の部分を抑え両手を引き上げ、その瞬間に右手の親指に力を加え、頸骨の関節を一瞬押すようにすると頸骨の関節が脱臼

し、鶏は一瞬にして命を絶たれ、脱臼部分の皮下に大量の内出血が起るという今思えば残酷な殺処分の方法であった。

この頃の鶏飼育は数十羽の放し飼いかバタリー飼育だったので鶏舎の消毒後、鶏を捕獲し、一羽ごとに処分するしかなかった。数十羽も首抜き法で処分すると腕も疲れてきて腕力も萎えてきて首抜き法にも限界があったように思う。ブロイラー飼育のような多数の飼育鶏の場合には、餌袋に詰め込み窒息死させてから焼却処分を行ったものだった。

12. 十和田の山奥でお世話になった養蜂家に茨城で出会う



春を迎えると茨城町の網掛地区から徳宿地区にかけて、菜の花が一面に咲き始めると、この菜の花の蜜源を求めて東北地方から移動養蜂家達が集まってくる。このため、他県からの移動養蜂家から事前に「移動地の申請書類」を家畜保健衛生所に提出させ、地元の養蜂協会と協議して蜜源の確保のために数回の協議を重ね、移動養蜂家との蜜源の奪い合いの紛争を回避するための会議が持たれることになる。

家畜保健衛生所では、これらの申請に基づいて家畜伝染病予防法に規定されているミツバチの腐蛆病検査を実施することになる。この腐蛆病はミ

ツバチの幼虫（蛆）がPaenibacillus larvaeの感染によって死滅融解するミツバチの増殖を阻害する病気で法定伝染病に指定されているものである。

昭和35・36年のころだったが、腐蛆病の検査のため、茨城町網掛地区の移動養蜂家を訪れた時のことである。検査申請対象者が青森県三戸市奥山養蜂場とあった。検査も何事もなく終わった後、雑談になって十数年前に国営牧野のころ、脱牧馬を探して青森県の迷いが平の山奥で三戸の養蜂家に一晩御厄介になったことを思い出し、その話をしたところ「それはわたくしの親父かもしれません。よく親父からその時の話を聞いております。その時は、この山奥に馬に乗った二人組のものが突然来了ので、うわさに聞く山賊かも知れないと驚いたと。」との話をよく聞いていたという。偶然にも私が十数年前に一宿一飯の恩義を受けたその養蜂家だった。それからその養蜂家とは親しくなり、水戸市内の料理屋で食事を共にし、当時のことを思い出し昔話に花を咲かせ、茨城に来た時には、何かにと便宜を図らってやったことがあった。

数十年前のあの山奥での一宿一飯の恩義を、茨城に来てから返すことになったのである。世の中は広いようで狭いものである。

次号につづく

こぼればなし

廃藩置県と茨城県初代知事

慶応3年（1867）王政復古で、政権は江戸幕府から朝廷に移った。早速行われた廃藩置県は、当初「藩」はそのまま「県」に置き換えたため、3府302県であった。常陸の国では水戸県、松岡県、宍戸県、笠間県、下館県、下妻県、麻生県、石岡県、土浦県、志筑県、牛久県、若森県、松川県、竜ヶ崎県の14県。更に明治5年には3府69県となり、最終明治22年には、現在の47都道府県に統合され、「県令」（知事・参事）は、中央政府から、旧藩出身ではない者が派遣された。

茨城県初代知事は「山岡鉄舟」。江戸本所出身。幕臣で尊攘派・子爵。勝海舟、高橋泥舟と共に幕末三舟の一人。「一刀正伝無刀流」開祖。剣・書の達人。実父は旗本小野朝右衛門、母は鹿島神宮神職の娘で先祖に塚原ト伝。剣豪にして不殺主義を徹底。山岡は勝海舟と西郷隆盛の仲立ちをし、江戸城無血開城を成し遂げる。維新のため日本人同士で血を流す愚を説き、西郷を諫める。明治維新は西郷・山岡の両豪傑が成し遂げた…とも云われた。西郷に『山岡は金も地位も命さえもいらぬという。こういう男でなければ天下の大仕事は出来ぬ』と言わしめた。無私無欲で武士の鏡。10年間明治天皇の侍従。友人に清水次郎長。188cm、108kg。53歳胃がんで没（1836.6.10～1888.7.19）。

S. S

宇宙人が攻めてこない訳

勤務退職者支部 菅 原 茂 美

地球人的発想からすれば、こんな美しい地球（ほし）を奪う為に、なぜ宇宙人が攻めてこないのか？

S F 小説や映画には、激烈な戦闘場面が多く展開しているが、現実には、何者も地球を攻めに来てはいない。何の魅力もないのか？それとも我々は自己陶酔で、地球は魅力満点と勝手にうぬぼれているだけの話なのか？

この狭い天の川銀河系内だけでも、生命が宿りうる天体は、100万個は存在すると推定されている。ならば地球より早く、生命が誕生し、文明を1千万年や、1億年先行している知的生命が存在してもおかしくはない。それを前提に、宇宙人が攻めてこない理由を考察してみた。

①この宇宙には宇宙を移動できるほどに、科学が進歩した知的生命が存在したにしても、同時に「倫理」面も平行して発達し、己の欲望を満たすために、他を侵略など絶対行わない。

②生き物の基本は「生存競争」。どんな知的生命と言えども、この原理から逃れる事はできないはず。宇宙を移動できる科学を手に入れる事ができても、終始、自己優先の競争が先行し、惑星内の協調ができず、自ら滅亡してしまった。

③他の銀河系からの襲来は、銀河間に強大な引力の暗黒物質が存在し、いかなる物質も銀河間を超えて、脱出はできない。

先に結論を申し上げれば、以上3者のいずれかであろう。私の推理は、生き物の進化の理想的終末は①である。しかし、地球人の「生きざま」が、宇宙でも汎用し、残念ながら②が原因かと思われる。③は全く未知の世界。推測不能。

*

今から138億年前、ビッグバンにより宇宙は誕生し銀河が1700億個（観測可能）誕生した。各銀河の大きさは、矮小銀河（恒星数100万個）から巨大銀河（100兆個）まで、さまざま。

我々の天の川銀河の大きさは中規模。具体的に

は、直径10万光年、厚さ1.5万光年、凸レンズ型の「渦巻き銀河」である。宇宙の中心から、毎秒600kmの速さで遠ざかっている。天の川銀河の質量のほぼ95%は、暗黒物質や暗黒エネルギーで満たされ、現在の科学で理解できる「物質」は、わずかに5%以内である。そして、最寄りの銀河は、アンドロメダ銀河で、230万光年離れているが、毎秒122kmのスピードで我が天の川銀河に近づいており、今から40億年後には両者は衝突・合体するという。

宇宙膨張のエネルギー源は、暗黒エネルギーと言い、宇宙全体に広がって、「負の圧力」を持ち、「反発する重力」と言われ、宇宙力学の標準モデルとなっている。即ち現在の膨張宇宙の原動力は、我々の知る物理学では理解できない暗黒のエネルギーで支配されている。そして、膨張が極限に達した後は、推測だが指数関数的に縮小を続け、最後はビッグバンの反対の「ビッグクランチ」に陥ると考えられている。

宇宙の質量は、現在の物理学で理解できる「物質」として4.9%。現在の物理学が通用しない「暗黒物質」が26.9%。同じく物理学が通用しない「負の圧力」源である「暗黒エネルギー」が68.3%と言われる。要するに95%は、何が何だか解らないもので満たされている。

さてわが天の川銀河系の最古の天体は132億年前のものであり、わが銀河の恒星数は、4,000億個と言われ、全質量は太陽の1.26兆倍。

太陽系は銀河系の回転軸の周りを秒速217kmで、2.5億年かけて一周する。そしてわが太陽系は、46億年前、先代の恒星が老化爆死して宇宙に散った星間物質が、再凝集して「原始太陽」として誕生した。そして、あと50億年したら、太陽は燃料（水素）を使い果たし、哀れな「白色矮星」として佇む。生物と同じように、物質世界にも、「輪廻転生」が存在するように見受けられる。

さて太陽と同時に、太陽系の惑星も46億年前誕生した。地球は太陽系8個の惑星（他に準惑星5個、小天体21万個）のうちの一つであり、外周4個はガス型惑星であり、内側4個は岩石型惑星である。地球は太陽から1.5億km離れた第3の岩石型惑星である。

そして地球誕生1億年後、火星ほどの大きさの小天体が地球に衝突してきて、地球・小天体とも大破壊。地球の大量の物質を持ち去り、新たに地球を回る「衛星・月」が誕生した。月の表面の一部の岩石が、地球の岩石と同一の物であることからその事が分かる。

*

さて次は生命の誕生であるが、月が誕生して数億年後、今から約40億年前、地球が、やっと冷えてきたら、海底で、原始生命が誕生した。

しかし、このようにして地球に生命が誕生したが、この銀河内で、地球だけが特異な存在である理由もない。我が天の川銀河系内で、恒星からの距離など、地球と同じ条件が、他の恒星の惑星（系外惑星）に起きない筈ではなく、生命が誕生し、星間移動までできる知的生物が繁栄していくてもおかしくはない…と考えられる。

恒星との距離、岩石や大気の元素構成、惑星誕生からの年数、水が3態（固体の氷、液体の水、気体の水蒸気）をなし、恒星やその惑星誕生後の時間など、地球上にそっくりの惑星は、天の川銀河内だけでも100万個は存在すると考えられている。全宇宙についていえば単純計算でその1,700億倍の星に知的生命が宿っているかもしれない。ならば、地球人的発想をもってすれば、いつ他の天体から宇宙人が攻めてきてもおかしくはない。

現在の地球上は生命があふれているが、恐らく生命の元祖はただ1個の単細胞から始まった。現在の全生物はその子孫である。その根拠は、すべての生命はDNA・RNA等核酸により遺伝の設計図が描かれている。いかなる生命も、設計図通り発育・成長・生殖を行う。多細胞生物の体細胞は生殖細胞の保護・育成・生殖が完了すれば御用済みで、個体死が待っている。それゆえ、全生命

の共通性から元祖はただ1個の単細胞と考えられる。単細胞生物は出芽・分裂などで増殖し、事故以外、老化などによる「死」はない。

地球上の生命は30億年間、単細胞時代であった。今から10億年前、ある単細胞は隣の単細胞に食われないためには、2個体が結合して体を大きくし、後、多数の単細胞が寄り集まり、体を大きくした方が生存確率を高めるという事で、多細胞化した。人類はおよそ60兆個の細胞からなる。そして、多細胞生物に進化した後は、遺伝子に多様性があった方が、生存確率が向上するため、「雌・雄」が生まれた。

生殖の際、雌雄両者が染色体を半分ずつ持ち寄り、シャッフルして合体し、新たな個体が誕生する。それゆえ、同じ両親から生まれていながら、きょうだいでも、シャッフルの兼ね合いで、まるで異なる形になることがある。一卵性双生児なら全く同じであるが、普通のきょうだいは、由来する両親の遺伝子活性の強弱で、どちらかにより強く似たり、中間だったりする。

*

さて、脱線が続いたが、現在の地球人の常識から考えれば、結構な新天地があれば、ゴミゴミした現状から脱出し、清々と新世界に移住し、羽を伸ばして暮らしたいと思うのは普通であろう。日常に避暑地・避寒地で何の心配もなく暮らせるならば、それも真に結構な話ではある。

これまでに、異星人がこの地球に来たという証拠は全くない。恰もそれらしい検証を上げて、過去に来訪した形跡がある…などという著書は多数あるが、いずれも好奇心を煽るフィクションである。UFO等、まことしやかに写真など添えて観察報告されるが、専門家の鑑定によれば、いずれも勘違いか、高度の画像処理技術を用いた「まがい物」。ましてや地球を攻めてきて、あわよくば占領しようなどとすれば、かなりの船団を組む必要があろう。それだけの質量を、母星や恒星の脱出速度を超えて宇宙に飛び立つのは、ただ事ではない。しかも、すぐ隣の恒星系に移動するだけでも、何光年もかかるので、光速に近い速度をいかにして

確保するか。光速とは1秒間に真空中を光が約30万km進む速さである。太陽から地球まで光が届くのに約8分かかる。光速は音速の約91万倍である。

*

他の惑星から攻めて来る事よりも、逆に、こちらから攻めて行く事に置き換えて考えると… 戦艦で行くか銀河鉄道で行くか知らないが、とにかく、べら棒な重量の編隊を組み立て、太陽系脱出速度の秒速17kmで、仮に太陽に最も近い恒星（ケンタウルス座プロキシマ・ケンタウリ）の惑星（水があるらしい）までの距離4.2光年を、どうやって飛ぶか？ 地球上で最も早い乗り物は、英仏共同開発のコンコルドがマッハ2であった。しかし、マッハ2では4.2光年の距離を飛ぶには、191万年かかるが、その速度では、地球脱出さえできない。太陽系を脱出するためには、最低でもマッハ50なければならない。マッハ1は音速（1秒間に約331m）の速さなので、マッハ50なら秒速約17kmである。仮に編隊がマッハ50（光速の約18万分の1）で飛んだにしても、片道4.2光年は7万6400年かかる。これだけの時間を人間が凍結睡眠で行くにしても、安全に「解凍」は、できるのか？

7万6400年後、現地到着し、幸いそれほどの抵抗もなく、移住に成功したにしろ、遺伝子の重複を避けるため、男女最低500人は必要。この人数で新世界を開拓するには、地球での失敗を繰り返さないためにも、徹底的に温厚で、平和主義第一の紳士淑女を選考・凍結して、送り出さなければならない。新天地でも、またまた戦争を繰り返すようなら、移住の意味がない。いや、500人を運ぶのではなく、数人の宇宙飛行士が、500人の凍結受精卵250個を運び、解氷・人工子宮で培養・新生児誕生。育児発育後、新天地元祖人類として定着できるか？ 新生児は、野菜の促成栽培じゃないから一人前になるまでには、やはり25年ぐらいかかるだろう。こんな面倒な事考えるだけでも気が遠くなる。ましてや現地に着いたら、地球より1千万年ぐらい文明が先行している知的生物がおり、鼻であしらわれ、おなら一発で吹き飛ばされるのが関の山。

こう考えたら、他の惑星へ移住など考えられますか？ どんなに科学が進もうが、クリアしなければならないハードルが高すぎる。ならば、地球のゴミゴミをクリアし、リホームして住みよい環境を造り直した方がはるかに手っ取り早い。アホな夢は見ない方が益し…という事になる。それゆえ宇宙人は攻めて来ない…と考える。

*

さて考えてみると、船団は互いの連絡に電波は使えないはず。なぜならば、もし目的地に高度の文明が存在しているとすれば、電波の発信元は早々に敵軍にキャッチされ、到着前に簡単に撃墜されるかもしれない。無線通信はダメという事。S F劇画を空想するのも容易じゃない。

そこで、仮にケンタウリの惑星に無事着いたとしても、抵抗があれば戦うほかない。どんな武器を持参するか？ 諸々考えたら、戦団は最小でも戦艦大和10艘は必要かもしれない。こちらの軍団は、7万6400年も宇宙を旅する超能力を持っていると自負しても、もし相手様は地球人などより1千万年も文明が進んでいる超知的集団であったなら、戦艦大和10艘等、お茶の子さいさい。来るなら来てみろ…と鼻であしらわれるのが、落ちであろう。自惚れたバカほどアホらしいものはない。

そんなわけで、500人が片道7万6400年暮らす生活物資、燃料、通信器具。考えるだけで頭がパンクしそうだ。結局、他の惑星に移住など、超ナンセンスの夢想に過ぎない。ということは、こんなアホらしいことを実行する知的生命など宇宙のどこにもいないという事。もしいたとしても、倫理が完成し、先述③の生物を超えた「神々」の世界なのかもしれない。

私自身も、現在の人類が、こんなにも戦争好きで、平和になれないのは、数百万年ぐらい前に、宇宙人がこの星にきて、いつか占領するために、人種とやら厄介な生物の遺伝子を改変し、戦争が好きでやめられず自滅させ、綺麗な更地になったら移住しようとしたに違いない…等と書いたことがある。これは単なる「戯れ」。

しかし、よく考えてみれば、片道7万6千年の

移住に成功したにしても、毎日が何の苦労もない、ノホホンだけで暮らすのも飽きが来る。生活にメリハリがないなど、何の魅力もない。

*

人間が移住を望む根拠は、人口過剰により、イザコザが多すぎるからであろう。人口コントロールがうまく機能せず、むやみやたら子孫を増やしたからこそ、ゴミゴミしていると感じるのであって、もっと人智が及べば人口コントロールは、とっくの昔にできていたはず。ならば今更危険を冒して他の惑星に移住など考える必要もなかろう。異星の知的生命も、同様と思われる。更に何か生存に不利な伝染病とか、有毒ガスとかあれば、移住するほどの魅力はない。

地球人より1千万年も文明が進歩した異星人ならば、もし地球に移住を考えても、そこらの事情は簡単に調査済みなのである。人類とかいう、かなり高度化された武器を持つ先住民と闘ってまでも、移住する魅力には欠ける。

宇宙人が地球に来た証拠がないとする理由は、現在、宇宙人が発していると思われる「人工的な電波」が、全く傍受できないという事もその一つ。

どんな文明が進もうとも、基地と飛行隊との連絡に電波を使わない方法はなかろう。しかし現在どんな方法で検出を試みても、宇宙から人工的電波は検出できないという。これも宇宙人がこの地球に来ていないとする証拠である。

宇宙人がこの地球に攻めてこない理由として、結論は、移動期間中の生活物資や武具、燃料等、莫大な重量を光速に近いスピードでも、何万年も要するので、アホな行動は起こさない。なお無事目的地に着いたとしても、強力な抵抗にあったら、その防御も容易ではない。自分達よりはるかに遅れている地球文明など、何の興味もない。危険を冒して探検する価値もない。利口な宇宙人ならばそう考えるに違いない。

地球人が、他星征服の夢を見るのも同じ事。ならば、逃げ出そうとした原因のゴミゴミした現在の環境をリセットして住みよい環境に組み替えた方が手っ取り早い。好奇心だけでトライするにはあまりにもリスクが大きすぎる。

他星への移住は夢として残しておき、現状改善に力を注ぐ方が、はるかに利口と言える。

動物名のルーツを探る（シリーズ44 フグ）

フグ 河豚 鮆



フグの古名は「ふく」で、怒ると膨れることから、ふくるが「フク」になり、さらに「フグ」になったとされている。また、古名ではフクベとも言ったが、膨れて瓢箪のようになることから、とも言われている。河豚の毒は卵巣や肝臓にある毒素テトロドキシンがあるため、その料理法には慎重にする必要がある。

河豚には、マフグ、トラフグ、クサフグ、ヒガンフグ、アカメフグ等

多数の種類が知られている。

英名 スウェル・フィッシュ

仏名 テトロドン

独名 クーゲルフィッシュ

(TS)

2 犬猫殺処分ゼロを目指すシンポジウム

基調講演

テーマ 幸せな共生に向けて

「人も動物も幸せな共生」に向けてやらなければなら
ないことを参加者とともに考える講演

講 師 (公社)日本動物福祉協会 顧問 山口 千津子 氏



パネルディスカッション

◎コーディネーター

会田 保彦 氏 ヤマザキ動物看護大学 名誉教授



◎パネリスト

山口千鶴子 氏 (公社)日本動物福祉協会 顧問

宇佐美 晃 氏 (公社)茨城県獣医師会 会長

館 静馬 氏 茨城県議会議員

磯山さやか 氏 いばらき大使 タレント



「犬と猫とヒトが共に幸せに暮らせる社会の実現」、「共生」をテーマに問題提起や解決策等について様々な視点から意見を参考に参加者とともに考えるディスカッションが行われた。

こぼれ話

太陽は永遠か？

映画や小説なら、こう問われたら「yes」と答え、華麗に展開するであろう。しかしサイエンスの立場からは絶対に「No」である。物質世界に「永遠」はありえない。太陽は天の川銀河の恒星の一つであり、半径約70万km。質量は地球の33万倍。全ての惑星・衛星や準惑星などを加えても、太陽系全質量の99.96%を占める。推測年齢は46億歳で現在、中心部に存在する燃料の水素50%を「熱核融合」で使い果たし、寿命のほぼ半分を過ごしたと考えられる。太陽は天の川銀河の中心から2.5万光年の位置にあり、銀河の中心を2.2億年かけて一周する。太陽が前回、今の位置にあった頃、地球上では爬虫類から分岐して、「哺乳類」が誕生した。

さて太陽が発する光のエネルギーは、中心核で4個の水素原子が核融合し、1個のヘリウム原子に変換される際に発生するものである。1秒間に430万トンの質量が主にガンマ線という電磁波に代わり、周囲のプラズマなどと衝突し、17万年かけ「緩やかな電磁波」に変換されて、太陽表面まで浮かび上がり、「太陽光」として宇宙に放出され、地球では生命を育む事となった。

太陽誕生の経過は、今の位置にあった先代の恒星が「超新星爆発」を起こし、燃えカスの星間物質が徐々に再集合し、現在の太陽系が形成された。現在の太陽は先代よりも質量が少ないため、再び超新星爆発を起こして「無」に帰する事はない。水素燃料を使い果たせば、ヘリウムの核融合が始まり、「赤色巨星」となり、それも使い果たせば123億年の寿命を終え、炭素や酸素の燃えカスからなる冷え切った「白色矮星」となって、さびしく佇む事となる。更に我が天の川銀河のお隣さんは超巨大な「アンドロメダ銀河」である。これが曲者。天の川銀河に秒速300kmの猛スピードで急接近中。今から40億年後には、我が天の川銀河と衝突し、完全に吸収合併され、太陽も地球も、どうなる事か、皆目見当がつかないとのことである。

S. S

大井川知事と畜産関係団体との 畜産行政施策に関する意見交換報告

大井川和彦知事、山岡恒夫県議会議長と茨城県内畜産関係団体の代表者による意見交換会が開催されました。

開催日時 平成30年8月1日（木）16時から17時まで

開催場所 水戸京成ホテル

団体の主な出席者

公益社団法人 茨城県畜産協会会長	佐 野 浩
茨城県酪農業協同組合連合会代表理事長	大 楓 和 夫
全国農業協同組合連合会茨城県本部本部長	川 津 修
茨城県肉用牛生産者協会会長	橋 本 武 二
茨城県養豚協会会長	倉 持 信 之
公益社団法人 茨城県獣医師会会長	宇佐美 晃
他 団体代表者 23名	

主な意見交換内容

- 常陸牛の輸出拡大～常陸牛のさらなる輸出拡大への取り組み等
- 肉用牛生産基盤の強化～和牛子牛増頭の取り組み等
- 酪農対策～酪農業の後継者、新規就農者対策等
- 養豚対策～茨城の新ブランド豚肉「常陸の輝き」の取り組み等



平成30年度関東・東京合同地区獣医師会 親善チャリティーゴルフコンペ

平成30年9月10日（月）「平成30年度関東・東京合同地区獣医師大会」「獣医学術関東・東京合同地区学会」翌日恒例の平成30年度関東・東京合同地区獣医師会親善チャリティーゴルフコンペを「宍戸ヒルズカントリークラブ西コース」（茨城県笠間市）において108名の参加者を集めて本会担当で開催いたしました。

競技は個人戦（新ペリア方式のハンディ戦）、団体戦（各獣医師会個人戦上位4名のストローク合計）を行いました。

茨城県からは25名の参加をいただき団体戦は6位の結果でした。

本会参加の宇佐美彩さんが女性の部で優勝いたしました。

参加された皆様、健闘いただきありがとうございました。

主な結果は次のとおりです。（敬称略）

個人戦 優勝 佐藤 志伸（東京都）

準優勝 板垣 光明（群馬県）・第3位 岸 秀樹（群馬県）

第4位 鈴木 誠（千葉県）・第5位 赤塚 巧（横浜市） 以下略

団体戦 優勝 東京都獣医師会

準優勝 千葉県獣医師会・第3位 埼玉県獣医師会 以下略

女性優勝者 宇佐美 彩（茨城県）

懇親パーティーでは参加者の皆様お互いの健闘を称えあいながら親交を深めていただき、来年の千葉での活躍を誓いあっておられました。

本会員で宍戸ヒルズカントリークラブのメンバーの皆様方には、計画、準備段階から実施運営に際して多くのご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

次回は2019年10月28日（月）千葉県獣医師会担当でグリッサンド ゴルフクラブ

（千葉県成田市十余三30）で開催される予定です。



宇佐美 晃 会長挨拶



参加された皆様お互いの健闘を称えての懇親風景

関東・東京 獣医師大会

合同
地区

2019年10月27日(日) 千葉



幕張メッセ (国際会議場) 千葉市美浜区中瀬 2-1

日本産業動物獣医学会
(関東・東京)

日本小動物獣医学会
(関東・東京)

日本獣医公衆衛生獣医学会
(関東・東京)



主催: 公益社団法人千葉県獣医師会

共催: 東京都獣医師会・栃木県獣医師会・神奈川県獣医師会・埼玉県獣医師会・群馬県獣医師会・山梨県獣医師会・横浜市獣医師会・川崎市獣医師会・茨城県獣医師会

協催: 公益社団法人日本獣医師会

平成
30
年



日本獣医師会 獣医学術学会 年次大会 — 神奈川 —

2nd Announcement

期日 平成31年2月8日(金)～10日(日)

場所 新横浜プリンスホテル

主催：公益社団法人日本獣医師会（企画運営：日本産業動物獣医学会・日本小動物獣医学会、日本獣公衆衛生学会） 共催：公益社団法人神奈川県獣医師会 協力：関東地区獣医師会議合会／企画協力：公益社団法人日本獣医学会／後援：農林水産省、環境省（申請中）、厚生労働省、文部科学省（申請中）、日本学術会議（申請中）、神奈川県（申請中）



あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

茨城支店 水戸第二支社

〒310-0803 茨城県水戸市城南 3-11-14

TEL : 029-224-2367 FAX : 029-224-2361

【取扱代理店】

あいおいニッセイ同和インシュアランスサービス株式会社

水戸支店

〒310-0803 茨城県水戸市城南 3-5-32

TEL : 029-226-3638 FAX : 029-227-1448



ASCO

株式会社 **アスコ**
<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地

TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

営業所
所在地

- ・ 東日本支店
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
東京、大宮、宮城、福島
- ・ 中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・ 西日本支店
広島、福山、山口、米子、岡山
大阪、京都

犬用混合ワクチン

品質に配慮した日本製ワクチン



ワクチンとともに60年
共立製薬だから
であります。

劇 動物用医薬品 要指示 指定

キャニバック®9

(9種混合ワクチン)

- ジスタンバー
- 犬アデノウイルス(2型)感染症
- 犬パラインフルエンザ
- 犬バルボウイルス感染症
- 犬コロナウイルス感染症
- 犬レプトスピラ病
(イクテロヘモラジー、カニコーラ、ヘドマディス)

劇 動物用医薬品 要指示 指定

キャニバック®6

(6種混合ワクチン)

- ジスタンバー
- 犬アデノウイルス(2型)感染症
- 犬パラインフルエンザ
- 犬バルボウイルス感染症
- 犬コロナウイルス感染症

劇 動物用医薬品 要指示 指定

キャニバック®5

(5種混合生ワクチン)

- ジスタンバー
- 犬アデノウイルス(2型)感染症
- 犬パラインフルエンザ
- 犬バルボウイルス感染症

注意・獣医師等の処方箋・指示により使用して下さい。

製造販売業者

KK 共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南 1-5-10

お問い合わせ先:03-3264-7556(学術)

想いをカタチに : 応援グッズ製作 : 刺繡製作します

横断幕



タオル



ブルゾン



Tシャツ



一般印刷・オリジナルワッペン・タオル・シャツ・ブルゾン等

販促グッズ (ポケットティッシュ・クリアファイル・うちわ等)

刺繡・プリントの事なら

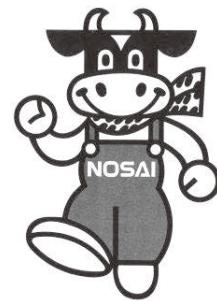


有限会社 クリエイティブ サンエイ

〒311-4303 東茨城郡城里町石塚1412-2

TEL:029-288-7778 FAX:029-288-7801

mail:info@c-sanei.co.jp http://www.c-sanei.co.jp



家畜共済

～～～平成31年から家畜共済が変わります！～～～

- ▽死廃共済と病傷共済が分離され各々補償割合が自由に選べます
- ▽死廃共済の共済金を事故発生時の資産価値で算定するよう変更

※この他にもサービス向上の観点から様々な改正が実施されます。

詳しくは、お住まいの地域を管轄する農業共済組合等へご連絡ください。

茨城県農業共済組合連合会 水戸市小吹町942 <http://www.nosai-ibaraki.or.jp/>
代表 TEL029(215)8881 Fax029(215)8880 mail:soumu@nosai-ibaraki.or.jp
家畜課 TEL029(215)8885 Fax029(215)8892 mail:kachiku@nosai-ibaraki.or.jp
診療所 TEL029(215)8887 Fax029(215)8892 mail:shinryo@nosai-ibaraki.or.jp

Challenge



Fairness



Love



Quality



Honesty



確かな技術と大きな責任。すべては信頼のために。

KMバイオロジクス株式会社

茨城県動物薬品器材協会



◎動物薬品・器材関係は私達がお手伝い致します◎



アケイ(株)茨城営業所
(株)アコ茨城営業所
(株)エイ・エム・アイ茨城営業所
近藤薬品(有)
(有)水府薬品
(株)大正堂茨城営業所
日本全薬工業(株)
森久保薬品(株)



地域のために 未来のために

筑波銀行は、より充実した金融サービスのために。そして、もっと豊かな日々の暮らしのために。

地域エリアの皆様とともに、未来に向かって力強く前進いたします。



筑波銀行は地域振興支援プロジェクト『あゆみ』に取り組んでいます。



<https://www.tsukubabank.co.jp>

筑波銀行



筑波銀行



平成 30 年 9 月 9 日

「平成 30 年度 関東・東京合同地区獣医師大会・三学会」開催

学術会議・社内会議・企業セミナー・展示会・会社説明会・面接会場など



EPOCHAL TSUKUBA
International Congress Center

〒305-0032 つくば市竹園2丁目20番3号 TEL029-861-0001 FAX029-861-1209

E-mail:office@epochal.or.jp URL:<http://www.epochal.or.jp>

日本政策金融公庫

—— 国民生活事業のご案内 ——

わたしたちは、地域の皆さまのための政策金融機関です。



・セーフティネット・

・ 創業 ・

・ソーシャルビジネス・

・ 海外展開 ・

・ 事業再生 ・

・ 事業承継 ・

日本公庫では、事業資金融資、国の教育ローンなどのほか、経営に関する様々な情報を提供しています。

水戸支店（国民生活事業）又は専用相談ダイヤルにお気軽にご相談ください。

日本政策金融公庫水戸支店国民生活事業

TEL : 029-221-7137

事業資金融資に
関するご相談に
おけること

国への教育
融資に
関するご相談に
おけること

事業資金相談ダイヤル

行こうよ！公庫

0120-154-505

平日9時～19時
※土日、祝日、年末年始(12月31日～1月3日)はご利用いただけません。

教育ローンセンター

ハローコール

0570-008656

ナビダイヤル®
平日9時～21時
※日曜日、祝日、年末年始(12月31日～1月3日)はご利用いただけません。

※電話番号のお掛け間違いにご注意ください。



日本政策金融公庫 水戸支店

日本公庫

検索

<https://www.jfc.go.jp/>

食品安全の国際規格ISO22000認証取得・対マカオ・ベトナム・タイ牛肉輸出認定施設
いばらきハサップ認証と畜場(牛枝肉)

株式会社茨城県中央食肉公社

代表取締役社長 小野寺 俊

安全安心な食肉処理、食肉卸売市場、部分肉加工
主な取扱ブランド 常陸牛/ローズポーク/美明豚

〒311-3155 茨城県東茨城郡茨城町大字下土師字高山1975
TEL029(292) 6811 FAX029(292) 6895



公益社団法人 日本獣医師会

獣医師総合福祉生命共済事業

病院開業会員・病院勤務会員および事務局専従役職員の方のみご加入いただける生命保険です。

本制度の魅力

スケールメリットを活かしたお手頃な掛け金

簡単な告知のみでお申込み可能

ご家族もご加入いただけます!

※ご本人の加入を条件に配偶者、お子さまもご加入
いただけます。

剰余金があれば配当金も支払われます!

※配当金は支払時期の前年度決算により決定しますので、将来支払われる配当金額は現時点では確定しておりません。また、支払保険金の多寡などにより配当金は大きく変動します。

※ご加入の検討に際しましては、獣医師総合福祉生命共済事業のパンフレットを必ずご確認下さい。

お問い合わせ先

公益社団法人 茨城県獣医師会
住友生命保険相互会社 水戸支社

TEL 029-241-6242

TEL 029-224-9113

CG2018-0239

国内専門メーカーの規格外「ペットシーツ」を リサイクルし製品化しています！



製造工程での印刷のズレ等で規格外となった製品を
メーカー様のご協力により譲受け、障がいのある方
たちが再度選別をして、製品化しています。



「ワークセンターひたち」では、障がいのある方が地域の一員として生活し、社会参加と
自立を目指してまいります。

ペットシーツを皆様に購入していただき、その収益が給料（工賃）となります。
ぜひ「ワークセンターひたち」のサポーターとして、ご支援、ご協力を、宜しくお願い申
し上げます。

お申込・お問合せ先
ワークセンターひたち

《住 所》 〒317-0073 茨城県日立市幸町 1-13-3
《T E L》 0294-32-5300 《F A X》 0294-32-5301
《E-mail》 info@akatsu-ki.com

科学するヤクルト

ヤクルト中央研究所
(東京都国立市)

ヤクルトには「科学するひと」がいます。多くの研究者が、日夜、世界の人々の健康を願い、研究開発に力を注いでいます。
乳酸菌にできることはもっとあるはず。私たちはそう信じて、今日もここヤクルト中央研究所で、
すこやかな未来のために一人ひとりがミクロの世界を科学し続けています。



人も 地球も 健康に

Yakult

水戸ヤクルト販売株式会社／〒311-4164 水戸市谷津町1-35

TEL.029(251)8960

古河ヤクルト販売株式会社／〒306-0015 古河市南町1-62

TEL.0280(31)8960

千葉県ヤクルト販売株式会社／〒264-0017 千葉市若葉区加曾利町63

TEL.043(311)8960

いわきヤクルト販売株式会社／〒971-8122 いわき市小名浜林城字向田2-1

TEL.0246(58)8960

ヤクルトお客様相談センター ☎ 0120-11-8960 (受付時間 9:00~17:30 土・日・祝日・年末年始を除く)

イイ ヤクルト

おいしさ、ふれあい。
フリマハム

香り薰る



フリマの
香薰
こうくん®



香薰あらびきポークCM 好評放送中！ [プリマハム 検索](#)

病院経営のあらゆるシーンに、ソリューションを。



セゾンプラチナ・ビジネス・アメリカン・エキスプレス®・カード

年会費20,000円(税抜)

年間ショッピング200万円(税込)以上のご利用で、翌年度年会費10,000円(税抜)

SAISON PLATINUM BUSINESS AMERICAN EXPRESS® CARD

医薬品や医療器具器械の
購入にも

出張費・飲食費だけでなく、医薬品や医療器具器械の購入や公共料金のお支払いなど、ビジネスユースに対応できる、ゆとりのご利用可能枠を設定させていただきます。

※ご利用可能枠につきましては、下記お問い合わせ先までご相談ください。

「法人口座設定」で
経費処理業務がスムーズに

カードのお引き落とし口座を法人名義口座に設定いただけます。個人用のカードと使い分け公私の利用を分離することで、経費処理を効率化できます。

※法人名義口座は代表者名が併記されているものに限ります。
またその場合、代表者はお申し込みご本人様に限ります。

専用コールセンターが
24時間365日対応

学会の出張手配やレストランのご予約、
お花の手配など、専任のスタッフが
24時間365日お客様のご相談にお応え
します。

ほかにもプラチナカードならではのサービスをご用意しております。

- 24時間年中無休「専任コールセンター」 ■従業員様のための「追加カード」 ■「海外、国内空港ラウンジサービス」
■最高1億円補償「海外・国内旅行傷害保険」 ■カードご利用でJALマイルが貯まる「SAISON MILE CLUB」など
※別途ご登録(無料)が必要です。

スマホ・タブレットでクレジットカード決済。



月額費用無料 決済手数料は3.00%~
お申し込みは専用URLまで >>> <http://app.coiney.com/a/ibaraki-vma>

※スマートフォン/タブレットのキャリアを問わずに利用いただけます。詳しいご案内は、下記までお問い合わせください。
※ご契約形態によって、ご利用可能なブランド・手数料が異なります。

●お申し込み・お問い合わせ

株式会社クレディセゾン 東関東支社法人営業課 動物病院担当 0570-002-521 (10:00~17:00 土・日・祝日休み) cl-amex038@cs.saisoncard.co.jp
※医薬品や医療器具器械のカード決済の詳細につきましても、お気軽に上記までお問い合わせください。

※このカードは株式会社クレディセゾンが発行・運営しています。「アメリカン・エキスプレス」はアメリカン・エキスプレスの登録商標です。
株式会社クレディセゾンはアメリカン・エキスプレスのライセンスに基づき使用しています。(A1808081)
※本紙記載の内容は2018年9月1日現在のものです。変更になる場合もございますのであらかじめご了承ください。(E)

SAISON
CARD
INTERNATIONAL

Credit Saison Co., Ltd.



～豊富な老犬介護経験。超大型・要介護犬もOK～ つくばわんわんランド開園から22年。数千頭の飼育経験で培った老犬介護のノウハウを活用してお世話します。



ご利用までの流れの一例

- ①カウンセリング&施設見学
- ②ご契約手続き
- ③入所日決定
- ④ご入所

※入所後もご面会・一時ご滞在可です



ひまわり

老犬老猫ホーム

TEL 029-886-3601

URL <http://www.rouken-kaigo.co.jp/> E-mail info@rouken-kaigo.co.jp



永遠の安らぎの地

ペット霊園

慈苑

慈苑は、ご遺体のお取り扱いから火葬場、納骨堂までそろった静かなペット霊園です。

あなたが愛玩された動物なら、犬・猫はもとより鳥・ウサギ・カメから金魚まで、どのような動物でもお弔い致します。

茶毘の方法は、まとめて火葬する〈合同葬〉、一体づつ火葬する〈個別葬〉、飼い主さんがお立ち会いになる〈お立ち会い葬〉の3種類が用意されています。

さらに「慈苑」では、年2回（春秋の彼岸）、合同慰靈祭を開催し、愛玩されたペットの靈をお弔い致します。



営業
時間

平 日 午前8:30～午後5:00

土 曜 午前8:30～午後4:00

日曜・祝日 午前8:30～午後4:00

お問い合わせ・お申込みは下記へ

有限会社ケイエス慈苑管理事務所
(公益社団法人茨城県獣医師会 指定管理会社)

茨城県笠間市日沢46番地

TEL 0296-72-5834

FAX 0296-72-9009

時間外連絡先 080-3204-5835



編集後記

平成30年度第2回目の会報（第90号）をお届けいたします。ご投稿いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

本会が担当にて、去る9月9日（日）つくば国際会議場にて開催しました「平成30年度関東・東京合同地区獣医師大会」と「三学会」が成功裏に終えています。

開催当日の朝方、岐阜県内の養豚農場において、我が国では、平成4年以来26年ぶりとなる豚コレラの発生が確認されたとのニュースが流れ、大会においても話題に上がりました。その後、岐阜県は、野生イノシシの死骸から豚コレラウイルスが検出されたと発表しています。野生イノシシへの感染拡大が危惧されます。因みに、本県内の野生イノシシの生息数（2016年）は1万6千頭以上と推計されています。

さて、本号には前記の三学会において、本会会員が発表されました抄録を掲載しています。日々業務ご多忙の中、調査研究に取り組まれ、その成果を発表されました皆様方に深く敬意を表します。

大会と三学会には、多くの本会会員が参加し、発表を行ったり、運営進行に携わったりと活躍され、会を盛り上げていました。本会報にも多くの会員の皆様が、ご投稿にてご参加くださいますようお願い申し上げます。

（橋本邦夫）

茨城県獣医師会会報編集委員

委員長	橋本邦夫（勤務退職者支部）
前委員長	菅原茂美（勤務退職者支部）
委員	栗山伸人（担当理事）
	松本徹（担当理事）
	比氣正雄（担当理事）
	村田篤（県北地区）
	久家美恵子（鹿行地区）
	稻葉豊範（県南地区）
	苦瀬秀雄（県西地区）
会報担当	村山正利（専務理事）
	中野真紀子（職員）

茨城県獣医師会会報

平成30年11月1日 発行

第90号

発行所 公益社団法人茨城県獣医師会
〒310-0851 水戸市千波1234-20
TEL029-241-6242 FAX029-241-6249
<http://www.ibajyuu.com>
発行責任者 宇佐美晃
編集責任者 橋本邦夫
印刷所 (有)クリエイティブサンエイ



イオンカードより

クレジットカード・電子マネー決済端末のご案内

手数料に関しては、個別にご相談に応じます。
お気軽にご相談ください。

会計窓口設置端末



LAN回線もしくは
電話回線を使用します。

スマートフォン決済



スマートフォンと連動させるため、
回線がない場所でも使用できます。

上記端末により、
クレジットカード・電子マネー決済が
一挙に導入できます。



端末によってご利用出来ない決済方法もございます。詳しくは当社担当者までご連絡下さい。

イオングループならではのメリット

① 会員数 約2,700万人

国内最大の会員数を生かして
ご提案します！

- ・イオンカード決済分の手数料削減
- ・優待契約による送客効果



② 他グループ会社のご紹介

例えば…
イオンディライト(株)
電子マネーWAONも使える自動販売機を
ご案内しています！



③ WAON POINT

イオングループ共通ポイントである
WAON POINTの導入も可能です。
現金払いでポイントがたまります。



お気軽にご相談・お問合せください！

イオンクレジットサービス株式会社
水戸支店 法人営業部門

茨城県水戸市南町 1-3-35
オカバ水戸三の丸ビル7階



029-226-7981

受付時間：10:00～18:00(土日祝を除く)



イオンクレジットサービス

人間だつて、
動物じやないか。



(人へのいたわりと、同じ気持ちで。)

違っているところよりも、似ているところが多い人間と動物。

だから、人間へのいたわりと同じ気持ちで、動物の健康を見つめたい。

あなたと同じ情熱で、動物の健康を守る。

わたしたちは森久保薬品です。

⑩ 森久保薬品株式会社